

校

医



第462号 平成29年1月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 林 鐘 声

## 新 春 を 迎 え て

会 長 林 鐘 声

謹んで初春をお慶び申し上げます。旧年中のご支援、ご協力を心から感謝申し上げるとともに、今後どうぞ宜しく願います。

昨年の第47回全国学校保健・学校医大会（北海道）のメインテーマは、みんなで築こう子どもたちの未来-考えよう学校医の果たす役割-でした。第46回（愛媛県）は、みんなで見守る子どもの成長、第45回（石川県）は、子どもたちの明るい未来のために-学校医の新たな役割を考える-と、子どもの未来や成長に学校医は何ができるのか、共通の問題意識となっています。呪文のように繰り返されている訳は、問題の答えが重要なのではなく、それに答えようとする姿勢が大事だからでしょう。100周年記念の座談会の席で、ある先達の一言がずっと心に残っています。「21世紀の学校医の姿はどんなだろう。」その事も考えての新たなスタートです。

学校保健安全施行規則の一部改訂のその後について少し述べます。1年延長した蟻虫検査は、いよいよ検査テープの確保ができなくなったことから廃止となります。座高検査の廃止で子どもたちの成長・発育を体重曲線、身長曲線で点でなく線で評価するようになったことは大きな前進であり、その功は徐々に明らかになるようです。運動器検診の導入で1.3倍時間がとられることで一時は学校によっては検診サポート医の採用も考慮しましたが、その常態化は学校医活動の低迷を招くことに繋がることから、今は、学校医の複数配置の基準緩和を求めていくことが良策と考えています。

他に、京都市の小中学生の心臓検診の心電図検査は省略4誘導から標準12誘導となりました。早速、省略4誘導では見落されていたブルガダ心電図の小1男子が報告されています。また、このところG2型のノロウィルスによる感染性胃腸炎が学校で多発

していますが、昨夏に新しく定めた学校における感染症の集団発生時の対応によって、迅速に処理し長期化を阻止しています。11月に久しぶりのエビペン使用が小学校でありましたが、学校での食物アレルギー対策は定着してきています。教職員の健康管理、運動クラブ活動の練習のあり方など様々な検討課題については、皆様と一緒に1つずつ丁寧に対応していきたいと考えていますので、何かあればご相談下さい。

次に、4月の総会までの行事について触れておきます。第65回近医連学校医研究協議会が1月15日（日）神戸市で開催され、川勝秀一先生が京都市の学校検尿事業の結果報告を行います。2月23日（木）の京都府医師会学校医部会総会は運動器検診の講演となり、京都市の検診方法、結果、そして課題について私が報告することになりました。今年度の検診のモチベーションに繋げられるよう報告したいと考えています。整形外科からは立入克敏先生が報告します。3月4日（土）の感染症講演会では、竹内宏一先生による「ワクチンのup to date（仮題）」としてワクチンの剤型も含めた最新のワクチン事情を中心に講演を戴く予定となっています。更に、特別企画として「思春期の薬物乱用」を京都府精神保健福祉総合センターの土田英人先生に講演依頼しました。100人以上集まるこの会を利用して、薬物の正しい理解を深めたいと考えての事です。ともに聞き逃さない講演となります。4月15日（土）の京都市学校医会の総会では、ブランド牛となっている京都肉の秘密と、京都の畜産の現況について、京都府農林水産技術センターの佐々木敬之氏に講演を依頼しています。

学校医会のより一層の充実と皆様方のご健康、ご多幸を心より祈念して、新年の挨拶とします。

# 新年の御挨拶

京都市教育長 在田正秀

新年あけましておめでとうございます。平素は、子ども達の健康の保持増進並びに本市教育の発展に多大な御支援・御協力をいただき心から御礼申し上げます。

さて、昨年度、国の健康診断マニュアルが改訂され、大きな変更として、今年度から学校健康診断において、四肢の状態の検査、いわゆる運動器検診が新たに始まりました。これを受け京都市におきましても、林会長をはじめとする学校医会の先生方と協議をさせていただき、本市の「四肢の状態の検査マニュアル」が完成いたしました。作成に御尽力をいただきました先生方におかれましては、御多忙の中、御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

新たな検診項目の実施にあたりましては、改善できる点も出てくるかも分かりませんが、子どもたちの健全な成長につながる検診となるよう、学校医会の先生方の御協力をいただきながら、充実に努めて

まいりたいと考えております。

また、労働安全衛生法の改正により、50人以上の教職員が在籍する学校については、教職員へのストレスチェックが義務化され、京都市におきましては、産業医の先生方の御協力を得て、昨年度から全ての学校の教職員に対し実施しているところです。このストレスチェック制度は、本人のストレスへの気づきを促すことが大きな趣旨ですが、管理職や教育委員会事務局も共に意識を高めていく必要があると考えております。

今後も、林会長を中心とする学校医会の先生方との連携をより深め、子ども達のいのちと健康を守る取組を更に推進してまいりますので、今後とも一層の御支援を賜りますようよろしく願いいたします。結びに、京都市学校医会の更なる発展と皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

---

---

# 新年のご挨拶

## ～外耳道異物（ビーズ玉）と咽頭異物（魚骨）～

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 松岡秀樹

新年あけましておめでとうございます。皆様方お健やかに新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。常日頃は学童生徒の健康にご留意いただき誠に苦勞様でございます。

さて、本年は児童生徒の外耳道及び咽頭の異物について述べさせていただきます。外耳道異物は幼児期に多く学童期になるとずっと減少しますが皆無ではありません。子供は先生方ご経験のように実に様々なものを外耳道に挿入します。丸い球形のものが多く、プラスチック製のビー玉、ビーズ玉、玩具用ピストル玉（ビービー弾）、豆類、消しゴム、キャップなどが見られます。

小児は自ら訴えることが少なく、家族も気付かないこともしばしばあります。外耳道深部に嵌入して

いることも多く、摘出に難渋します。成人に比して小児は外耳道が狭小です。正常範囲であってもさらに狭小なタイプがありまた疾患として他の精神的、身体的異常を伴っている場合は尚更であります。

先日はビーズ玉を挿入してきた症例がありましたが、母親が消毒薬や治療薬も使わないでほしい、良くないと聞いたと言います。中途半端な知識で困ったことを言うものだと思います。手術用顕微鏡下に観察して、微細鉗子で除去を試みましたが、外耳道骨部と軟骨部の移行部（峽部）を超えて嵌入しており、回転するばかりで摘除できず、耳垢水（重曹1、グリセリン5、浄水10）の耳浴を行う旨を詳しく丁寧に説明後によりやく納得、耳浴施行後耳垢鉤を用いて除去できました。把持、摘除しにくい異物と、

薬物不使用依頼の2つの問題を抱えた症例でした。

次に咽頭異物ことに魚骨について述べます。学校給食でも魚料理の献立の日もあり、これは栄養の面からも必要であり、その昔の有名な「銀の匙」教育とまで行かなくとも土用の鰻、秋の秋刀魚などは季節の食材の学習にもなり、あるいは特殊な漢字として受験に関係のない学習が生徒の興味を惹くことにもなると考えられます。さらに本来は家庭で教えることではありますが、最近魚を食する機会の少ない家庭もあり、十分教えられていない生徒（成人）も多く存在しますから、骨のある魚の食べ方を経験する機会にもなります。

数年前のことですが給食の鰻の骨の異物の件を、専門医会の担当理事から教育委員会に伝えたところ学校医会の役員の先生が折角鰻を食べさせようとした献立に小生が骨のある魚を給食に出すなと言ったとお話されているのを人づてに聞きました。小生の真意は上述の如くであり、決して魚の給食を止めよと申したわけではありません。

それはともかく魚骨の存在部位によりやはり摘除

に難儀します。口蓋扁桃に刺入していて、開口し舌圧子使用だけで見えるようなものは、容易に撮子で鉗除可能ですが、舌根部から喉頭、下咽頭食道入口部に存するものは中々容易ではありません。局麻剤のスプレー、塗布を行うか更にビスカスを含ませなければ、通常は絞扼反射を抑制することが出来ず魚骨に鉗子が到達し得ません。麻酔薬の使用をスムーズにさせてくれる生徒（成人も）は反射の抑制が上手くいって直達鏡あるいはファイバースコープ下に容易に摘除可能です。

本来は異物にならずに美味しく食べていただいて、救急受診のないのが一番ですので、ご家庭での教育とともに学校でも給食の時間に骨を取り分けて食べ、飲み込んで引っ掛けないように一言お話しいただければと思います。

本年が児童生徒にとりまして明るく希望に満ちた年になりますよう願いますとともに学校医会の先生方のますますのご健勝とご多幸をお祈り申しあげまして新年のご挨拶とさせていただきます。

---

---

## 謹 賀 新 年

京都府眼科医会会長 千原悦夫

新年あけましておめでとうございます。

先生方におかれましては穏やかな新年をお迎えることとお慶び申し上げ、また、学童の皆さんには怪我や病気の無い健やかな学校生活が送れる新年でありますようお願いしております。

楽しい学校生活を送っていただくためには良い視力が欠かせません。しかし、近視の児童の割合は高学年になるにしたがって増え、高校を卒業するころには4割を超える児童が近視になっています。近視は高齢になって起こる緑内障、網膜剥離、あるいは変性近視などの失明に至る病気の危険因子であり、学童期には低視力による事故発生の危険因子でもあります。近視発症の危険因子としては遺伝因子と生活習慣によるものが知られており、学童期は生活習慣による近視化を防ぐ努力を継続しなければならま

せん。また視力が落ちた児童には事故を防ぎ、学童の向学心を損なわないためにも適正な視力矯正を指導することは眼科学校医の一つの大きな役割と考えます。

また、昨年から文科省の指導に基づき学校現場で色覚異常検査が本格的に行われるようになりましたが、その実施においてはまだ学校現場に混乱があるように思われます。色覚異常は生徒個々人の色覚分別能を生徒本人に自覚してもらい、将来彼らが職業を選択する際の参考に資するためのものであって、決してこれがあるからといって生徒が劣等感を持ったり、ましてやいじめの原因になってはいけません。検査にあたる諸氏がプライバシーに最大限に配慮して色覚異常に対処していただくことをお願いして新年の挨拶にかえさせていただきます。

## 第47回全国学校保健・学校医大会 特別講演を聴いて

葛野小学校医 竹内 宏 一

特別講演は北海道旭川の旭山動物園々長、坂東元氏の「伝える命 繋ぐのは命」と題する講演であった。一言で云って各分科会では諸先生方の立派な発表を聞きましたが、この講演を聴いて（諸先生方には失礼ですが）遠い北海道札幌まで来て本当に良かったと言う感動を受けたのが実感です。最初、会場へ菜っ葉服のおじさんがこっそり入ってこられた時は、会場を間違われた人が入って来たなと思っていました。実はその方が演者だったのです。ほんの20年前までは、時代に取り残された動物園で、閉鎖寸前まで追い込まれていたのですが、脚光を浴びるようになったのは園長はじめ職員たちの次に述べるような人間としての「心」「行動力」「繋ぐ努力」がそうさせたのだということが理解出来ました。

動物園が果たす役割は、種の保存、生物多様性保存等について教育普及等さまざまな大前提、基本、目標は来園者に「ヒトの生き方」を基準とするのではなく、「多様な生き方」があり動物たちの「凄さ、かけがえのなさ」を感じてもらい、沢山の命に囲まれている居心地の良さを感じてもらうことだという考え方と、動物達が「生き生きとしていること」が大前提という哲学にあると思いました。環

境に耐えて、ライオン、象、ヒョウ、オランウータンとして淡々と「生きる営み」「生きている命」を観てもらえるように飼育され、施設、環境、動物の特徴の表現等に日夜努力され「生」とおして「凄惨い」を見出してもらおうとされているのです。動物達の純粋さ、気高さ、尊さを通じ、相手を知る事、思いやるとはどういうことなのかという原点を学ばせて頂きました。また、オランウータンの生活の営みのビデオを見せてもらい、繁殖する為には、彼らが「環境、生活を自分のものにする」ということが基本で命が繋がれているのだということも知り、現在の人間生活におきかえても考えさせられました。いかに人間の思い込みが可能性を無くしてしまうのだということも。

少年時代、犬と一緒に寝て育った小生には、私的ではありますが、現代社会を降り返ってみるとき、ゲーム、スマホ、テレビに興じる現代の子供達に犬や猿や小鳥等を飼育し生活のなかの家族として可愛がり、身近に生命の喜び、死の別れのつらさと悲しみを知ってもらうことも大切なのではと思ひ、親にもう一度考えて欲しい気持ちで伊丹空港に着きました。

### 京都府医師会指定学校医制度 単位取得講演会のお知らせ

#### 平成29年 校医・小児科医感染症講演会のご案内

日 時 : 平成29年3月4日(土) 16:30~18:30

場 所 : ANAクラウンプラザホテル京都 2F 朱雀の間 (TEL (075) 231-1155)

学術情報 : 『クラリシッドのトピックス』

開会挨拶 : 京都市学校医会 会長 林 鐘声 先生

座長 にしむらこどもクリニック 院長 西村 康孝 先生

一般講演 : 『ワクチンのupdate (仮題)』

竹内小児科医院 院長 竹内 宏一 先生

特別講演 : 『若者の薬物乱用と依存について』 17:00~18:00

京都府精神保健福祉総合センター 所長 土田 英人 先生

共催/京都市学校医会・京都小児科医会・マイランEPD合同会社

日医生涯教育認定講座1単位 (カリキュラムコード 11:予防と保健 0:その他) 府医指定学校医制度1単位